

令和2年度
事業報告書

一般財団法人日用金属製品検査センター

令和２年度事業報告書

一般財団法人 日用金属製品検査センター

1. 事業概況報告

受託業務としては、従来に引き続き一般消費者の安全・安心を確保するため製造業者、輸入業者、販売業者などを対象に、試験・検査業務を実施した。

SG検査については、進めてきた一酸化炭素に関するSG受付を令和２年１２月から開始した。

平成３０年１２月より試験・検査機関の商品パッケージへの表記制度を実施している。

なお、令和２年１０月より燕商工会議所会報への広告を掲載した、新規受託先が２１社増加した。

品質方針として「常に安全性向上を心がけ、関連規格・基準などに則り、または準じて、適時・的確な日用製品の試験・検査結果を提供する」を継続して掲げ、業務管理マニュアルとしてISO9001：2015に則るとともに法令を遵守して試験・検査サービスを実施した。

令和２年度の収支は助成金３，０００千円を含めて、事業受託計画８０，８００千円に対して受託実績が８７，２５１千円（達成率１０８．０％）であった。

なお、１年間でメーカーがクレームを受けて当センターが原因究明を手伝った件数は、令和元年度７２件に対して令和２年度は５６件と減少した。

2. 個別事業

令和2年度の依頼検査・試験実績を表1に示す。

表1 令和2年度依頼検査・試験の実績（単位：千円）

年度 項目			令和２年度 事業予算 (Ａ)（千円）	令和２年度 実績 (Ｂ)（千 円）	令和元年度 実績 (Ｃ)（千円）	計画達成率 (%) (Ｂ)／(Ａ)	対前年度比 (%) (Ｂ)／(Ｃ)
依頼 検査	ＳＧマーク ロット 認証製品 検査	燕	20,400	(1,076) 27,128	(1,094) 21,400	133.0	(98.4) 126.8
		大阪	3,600	(214) 3,056	(281) 3,633	84.9	(76.2) 84.1
		(小計)	24,000	(1,290) 30,184	(1,375) 25,033	125.8	(93.8) 120.6
	SG・PSC 型式認証 (工場認定・試買)		1,700	(18) 1,872	(23) 1,700	110.1	(78.3) 110.1
	SG・PSC ロット認証 (IH・缶切等 7 品)		3,000	(81) 3,035	(66) 2,300	101.2	(122.7) 132.0
	店舗・販 売商品 店舗点検	燕	0	(0) 0	(0) 0	100.0	(100.0) 100.0
		大阪	0	(0) 0	(18) 1,014	100.0	(100.0) 101.3
		(小計)	0	(0) 0	(18) 1,014	100.0	(100.0) 0
	出張料		700	(387) 420	(425) 685	60.0	(91.1) 61.3
	小計		30,000	(1,776) 35,511	(1,907) 30,732	118.4	(93.1) 115.5
	依頼 検査	一般性能関係		40,000	(2,003) 41,273	(2,010) 37,445	103.2
化学分析		燕	4,000	(171) 2,969	(229) 4,137	74.2	(74.7) 71.8
		大阪	1,500	(48) 2,010	(69) 1,536	134.0	(69.6) 130.9
		(小計)	5,500	(219) 4,979	(298) 5,673	90.5	(73.5) 87.8
クレーム関係		2,500	(56) 1,676	(72) 2,199	67.0	(77.8) 76.2	
運送料		800	(592) 743	(603) 764	92.9	(98.2) 97.3	
小計		47,800	(2,870) 48,671	(2,983) 46,081	101.8	(96.2) 105.6	
助成金、雑収入			3,000	3,069	6,087	102.3	— 50.4
合計			80,800	(4,646) 87,251	(4,890) 82,900	108.0	(95.0) 105.2(108.2)

() 内は受託件数。合計の下段() 内は実受託分前年比。

（１） 依頼検査

イ． SG・PSCマークロット認証検査

安全・安心の製品の普及のため一般財団法人製品安全協会が実施しているSG・PSCマーク認証事業の一環として行う重要な製品検査であり、製品の製造及び出荷のロット毎に抜き取りによって製品を確認するものであり、前年度比の金額では120.6%、件数では93.8%となった。

ロ． SG・PSC マーク型式認証検査

同じくSG・PSCマーク認証事業の一環で、工場登録を受けた製品に対して初回及び3年もしくは5年毎に実施する性能検査であり、前年度比の金額では110.1%、件数では78.3%となった

ハ． SG・PSC マークロット認証特殊検査

同じくSG・PSCマーク認証事業の一環で、ロット認証製品の初回及び6か月毎に実施する性能検査であり、前年度比の金額では132.0%、件数では122.7%となった。

ニ． 店舗販売商品点検検査

同じくSG・PSCマーク認証事業の一環で、一般財団法人製品安全協会から委託を受けてSG・PSCマーク商品の店舗販売品について試買検査を行うもので、今年度はゼロであった。

（２） 依頼試験

イ． 一般性能試験

依頼の多い試験項目は、耐荷重・引っ張り、取っ手の強度、耐食性、耐摩耗性、一酸化炭素発生量等であり、他にガラス熱衝撃試験、材料硬さ、鍋ツマミトルク、鍋容量計測、魔法瓶の保冷・温効力試験、塗膜の硬さ、合成樹脂の材質判別、蛍光X線分析、異物の分析など多岐にわたるもので、前年度比の金額では110.2%、件数では99.7%となった。

ロ． 化学分析試験

ホルムアルデヒド、カドミ、鉛、アンチモン、重金属、過マンガン酸カリ、蒸発残留物、フェノール、亜鉛などの溶出・分析試験（食品衛生試験）等を、外部委託を含めて実施したものであり、前年度比の金額では87.8%、件数では73.5%となった。

ハ． 表記制度

新規事業として実施しているもので、試験・検査で一定レベル以上と評価したものを商品パッケージ等へ、当機関名と登録番号を表記して貰うものであり、手数料は無料としている。

ニ． 製品の苦情発生原因究明（クレーム対応）

クレームの多い苦情内容については、表2に示すように特に際立った傾向は見られなくなってきた。

前年度比の金額では76.2%、件数では77.8%と一昨年まで数年来確実に2割前後の減少傾向が続いていたものが、昨年度は若干増加したものの今年度は再度減少した。

表2 令和2年度製品の種類別苦情内容と件数()内は平成31(令和元)年度実績

製品種類 苦情内容	鍋	フライパン	ケトル	ハンドル	金属製品類	家庭用調理器具類	合成樹脂製品類	ガラス製品類	その他	合計
サビ・変色・腐食等	(5) 2	(0) 1	(3) 1	(0) 0	(5) 5	(5) 3	(0) 0	(0) 0	(2) 3	(20) 15
異物・付着物等	(1) 0	(0) 2	(1) 1	(0) 0	(1) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 2	(3) 6
塗膜・剥離等	(1) 1	(5) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(1) 0	(1) 0	(0) 0	(0) 0	(7) 2
異臭等	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(1) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(1) 0
破損等	(0) 1	(3) 2	(2) 0	(11) 13	(0) 0	(2) 0	(1) 0	(1) 0	(2) 9	(22) 25
その他	(9) 3	(2) 2	(1) 0	(0) 0	(1) 0	(0) 1	(0) 2	(0) 0	(6) 0	(19) 8
合 計	(16) 7	(10) 8	(7) 2	(11) 13	(8) 6	(8) 4	(1) 2	(1) 0	(10) 14	(72) 56

(3) その他

令和2年度末時点の主要設備を表3に示す。

表3 主要設備

主 要 設 備 名	仕 様・用 途	備 考
エネルギー分散型 蛍光X線分析装置	(株) 島津製作所 EDX-8000	平成28年 6月
カーボンアナライザー	(株) 堀場製作所 EMIA-221V	平成15年 3月
引張試験機	(株) 島津製作所 AG-I 50kN	平成14年10月
赤外分光分析装置	(株) 島津製作所 FTIR-8400 (株) 島津製作所 IRspirit	平成17年 3月 令和 3年 1月
ハイスコープアドバンスト (マイクロスコープ)	(株) ハイロックス KH-3000	平成17年 3月
	(株) ハイロックス KH-1300	平成24年 4月

・令和2年度には、赤外分光分析装置、高温恒温槽、純水製造装置、電話システム装置を更新した。

3. 役職員の状況

イ. 役員（理事、監事、顧問）

令和2年度末の状況は表4のとおりである。

表4 役員名簿

役 員	氏 名	勤務形態	担当職務・現職
理事長	小島 陽	非常勤	(一財) 日用金属製品検査センター 理事長
専務理事	小林 武夫	常勤	(一財) 日用金属製品検査センター 専務理事、事務局長、庶務・経理部長
理事	塩浦 時宗	非常勤	塩浦技術士事務所 所長
監事	山崎 悦次	非常勤	山崎金属工業株式会社 代表取締役社長
監事	小林 貞夫	非常勤	日本金属洋食器工業組合 理事長

ロ. 役職員の事務所配置

令和2年度末の常勤役職員配置は表5の通りである。

表5 役職員の事務所配置（理事長除く）

区 別	性 別	燕事務所	大阪事務所	計
常勤理事	男	1	0	1
職 員	男	4	1	5
	女	5	0	5
計		10	1	11

ハ. 会議及び開催回数などについて

- ・理事会: 令和2年6月12日決算理事会、令和3年3月19日予算理事会の2回実施した。
- ・評議員会: 令和2年6月12日決算委員会、令和3年3月19日予算委員会の2回実施した。
- ・月例運営会議: マネジメントレビューとして位置づけ: 各月の業務の進捗成果及びセンターの運営についての検討会議で、実施件数、収入や依頼者苦情、不適合の有無状況、その他の議題について会議を行った、ただし新型コロナウイルスによるリスク回避のためメールにより確認した月もあった。大阪事業所とはLINE通話もしくはメールのみとし会議の内容は議事録を大阪事業所へメールで送付した。職員へは回覧した。また、内容については外部理事へも送付確認した。
- ・業務推進会議: 毎週月曜日の午前9時から、燕本部の全職員により申し送り、予定の確認及び協議を実施し、議事録を回覧、また理事長及び大阪事業所へメールで送付した。

以 上